

Q1. 「酪農体験におけるファシリテーターの効果的な声かけとは～経験豊富な酪農家の実践をもとに～（研究報告書）」について、最も印象に残ったことは何ですか？また、なぜそれが印象に残ったのか、理由もお書きください。

### ファシリテーター

- ・効果的な声かけは、一通りの話をするのではなく、個々の子供の表情や行動に気をつけて対応している点が印象に残った。
- ・酪農家の思いが子供たちに伝わるよう声かけの様子が見えてきたように思った。売っている牛乳は常に冷たいので、牛や牛乳の温かさが新鮮なことが農家としてわかったことがよかった
- ・子供の目線に立つとあまりにも農家の思いを伝えるための言葉かけ先手になっている様に思った。子供に考えさせる時間や感じる時間を持たせたらどうか。子供が言う前に「あったかいでしょ」と言うのは自己責任に欠けると思う。農家の思いは皆一緒だが、目線をしっかりしなくてはいけないと思う。私も今勉強中です。
- ・以前は気付きを与える言葉を重要視していたと思うが、今回はストレートに伝えることの大切さが強調されていた。
- ・”「生きる力」を育む教育ファーム”が観念的だったものが、石井先生の研究報告によって具体的になった。人（子供）が変わる（成長する）過程の一助になる。
- ・自分と牛との比較、同化について、現在の体験受入れでの扱いが少ないかもしれないと思った。もっと強調すれば、牛がもっと身近に感じられるかもしれない。体験者の年齢に限らず有効な声掛けと考えられる。
- ・体験毎に共通する言葉掛けは整理されているので論理的によくわかった。当然と思い何気なくやっていた声かけが他の方と共通していて、個性もそれぞれにあるものなのかと感心した。
- ・”いただきます”の意味、経済動物であるということ、安全配慮、牛の気持ちを考える、ほめるなど、自分がそうだと思っていたことがあり同感した。
- ・分析されていることにより”子供に影響力のある声かけ”が理解できた。H牧場さんのオリジナル教材の使い方やクイズは面白いと思った。参考になった。
- ・K〇さんの”活動にしっかりけじめをつけさせる”のは大変重要なことだと気づかされた。酪農という仕事が”遊び”ではなく”厳しさ”もあることを伝えることが見落されがちではないだろうか。
- ・自然と普段から口にしていることが今回の報告でベテランの方も声かけしていると知り、安心したと同時に自信にもつながった。
- ・牛の気持ちになるということが印象に残った。命の大切さを伝えることばかり考えていたので、牛の気持ちになって命について考えていきたいと思った。
- ・酪農家のタイプの違いが十人十色で良い。
- ・共通するものは、現場から出てくることかと感じた。

Q1. 「酪農体験におけるファシリテーターの効果的な声かけとは～経験豊富な酪農家の実践をもとに～（研究報告書）」について、最も印象に残ったことは何ですか？また、なぜそれが印象に残ったのか、理由もお書きください。

### 教育関係者

- ・ただ酪農体験するだけではなく、まとめていく必要性があると感じた。
- ・牛とは違う世界の先生をとりこにする教育ファームの力を感じた。
- ・”個別の声かけが有効”ということが印象に残った。酪農家さんは牛一頭一頭の状況を見抜いているので、子供たちのことを見抜く力があるのではないだろうか。だからこそ個別に見抜いての声かけができるのではないか。
- ・出来たことをタイムリーにほめる、全体への声かけと個々に対する支援、どれも教員としての基礎と共通するものだと感じた。
- ・酪農体験活動において、酪農家の共通の声かけに加え、それぞれの特徴的な声かけが関わる、つまり人柄や思いが入っていてそれがより良く伝わるといいなと思った。またその劇的变化が継続されるようにどのような活動が有効か考えていきたいと思った。
- ・我々が普段やっていることを皆さん意識的か無意識かはわからないがやっている事のように感じた（優れたファシリテーターの方）。
- ・雄と雌の出生からの生育方法の違いが印象に残った。かなり残酷な説明の仕方をするが、経済動物であることを最も印象的に話していると思ったから。
- ・これまで当然と考えられていた声かけによる支援を改めて整理分析することによって、ファシリテーターの方がスキルアップしていく具体的な内容が明らかになったなと考えている。それらを再度共通理解することによって、今後の酪農体験学習がより充実し効果があがっていくと考える。
- ・賞賛することと、酪農家の思いを伝えるという事が大切なんだと感じた。やはり思いなくして酪農体験は伝わらないのかなと感じた。
- ・酪農教育ファームの教育的価値、教育的効果を検証する一つの手法として、ビデオや発言を細やかに分析することが示され印象に残った。
- ・捉えている酪農体験が様々であること、実践している校種学級学年が様々であること、受入ファーム様態が様々であることの中でひとつの”効果”を抽出するのは困難であったことと思う。多くの体験や活動の中から効果的であった事例を報告するのではファームの指導者の力量に収束する報告にならざるを得ないと思う。豊富なデータがあったとしてもそれをどのように整理しどのような分析方法を用いたのかという研究になるとさらに良いと考えられる。科学的ということは再現可能ということなので、そのあたりを明確にしてほしい。

### 指定団体

- ・期待感を高めるところ。子供の気持ちをつかむためには重要かと思う。
- ・酪農家が自分の言葉で話せるかどうか。先生になりきらなくてもいいはず。

Q2. グループディスカッションを受けて、出前型の体験活動は、酪農教育ファーム活動にどう貢献していくことができると思いますか？ご自身の考えをご記入ください。

### ファシリテーター

- ・ 牧場訪問型と出前授業は関連させて、牧場に来てもらえる授業づくり、酪農や牛や牧場に興味を持ってもらえる状況づくりに貢献して、酪農教育ファーム活動が充実し活発になるものと思う。
- ・ 一度に多くの子供たちに牛のことを知ってもらえる。
- ・ 出前体験は酪農家による酪農家の言葉でツールを使って伝えられる。酪農家が誰でも毎日やっていることを話せばいいのでやりやすい。
- ・ 受け入れる（酪農教育ファームを実践する）学校数を増やすことができる。
- ・ 出前で牛を連れていくことはこれまでもこれからも賛成できない。やはり現場での体験が理解を深めると思う。先生は素人。折角の体験を活かすには、プロの酪農家が現場の話をして予習やふりかえりに関わるのが効果的だと思う。
- ・ まず第一に”牛との出会い””酪農家との出会い”が教育ファーム活動の最初の入口だと思う。逆に出前がなかったらと考えた時、あまり多くの子供たちが酪農や牛に触れることができない。すなわち全く酪農や牛に関わることなく大人になってしまう事がある。なので種々デメリットもあるが出前授業は教育ファーム活動にとって酪農の入口として必須だと考える。
- ・ 今回参加するまでは学校に牛を連れていきたいと考えていたが、デメリットや他の方法などを知り考えが変わった。今後は牧場に来て頂けるような出前授業を出来るように準備していきたい。
- ・ 子供たちの中にどうやって記憶として残っていくような体験作りや授業作りをしていくのか、学校関係者と連動して考え勉強していきたい。
- ・ 牧場体験のためのインセンティブになってほしい。
- ・ 酪農を伝えるということから声がかかったら進んで行くべき。上手い、下手ではなく自分の言葉でやっていることを話せばいい（昨日牧場であったこと、今朝あったことをリアルに、相手の求めるポイントをつかんで）。

Q2. グループディスカッションを受けて、出前型の体験活動は、酪農教育ファーム活動にどう貢献していくことができると思いますか？ご自身の考えをご記入ください。

### 教育関係者

- ・ 出前型であっても農家の人が伝えたいことがあり、やる必要性があるという事を感じていた。
- ・ ボランティア的に出前をとらえておられた。伝えることは大切だが講演することに付加価値を求め、農家の負担（ボランティア）ではなく副収入にできる方向が考えられないかと感じた。ただこれには酪農家のスキルアップが必要。
- ・ 打合せの大切さを痛感する。 事前の打合せ 授業の中での酪農家と教師の役割 事後の振り返り。 ~ まで同じくらい大切だと思う。それでこそ牧場につながっていくものだと思う、是非実現したい。
- ・ まず出前授業で裾野を広げ、その中から体験につながる学校を増やしていく。
- ・ 出前授業では教科書や伝聞からでは学べない酪農家の生の声が聞ける。それは大切にしつつそこから牧場に行きたくなるような今後も考え続けていけるような体験をすることが大切だと思った。牧場に行くきっかけとなったり、より興味を持てるような場となることが求められると思う。
- ・ Q1と同様に学校の教育課程に合った形の指導例があるとよいと思う。特に中学生の飲み残しが多いので、中学生に対しモノ教材や映像資料を通して酪農家の気概が伝わると変わると思われる。
- ・ 牛を連れての出前授業の酪農家に対する負担の大きさに大変驚いた。特に子牛の場合命にもかかわるということで本当に生半可な気持ちでやるべきではないと感じた。しかし酪農家の皆さんがそれでも牛に会う事は絶対に必要（牧場に行けず出前のみで終わる学校にとって）と言って頂き、そのために教師と酪農家が腹を割って子供たちの為という大前提に立ち共通理解をしていければ牛を連れてくことも不可能ではないと言われたことが大変うれしかった。学校としても酪農家さんに甘えるばかりでなく、主体的に関わっていきたいと思う。
- ・ Eグループで出た刑務所や少年院の他、児童福祉施設、障害児施設などへの効果は期待できるかなと思う。
- ・ 教師の立場として、ファシリテーターの使える教具教材の共同開発、学校種別を問わず広報普及の立場での情報発信が出来るのではないか。
- ・ 二つの方向が考えられる。一つは現在の体験学習がどのように行われどんな成果があったか、二つ目はそれを広げる取り組み、この両方が必要であると感じた。
- ・ 酪農的体験事例集の刊行（いつでも誰でも熱心に取り組む活動と理論的背景を持った学際的な事例集）。

### 指定団体

- ・ 出前型と牧場体験は”すみわけ”出来ると思う。
- ・ 訪問型と比べて出前型は教育の色が強いように感じる。教科ごとの目的を設定して実施すると効果的だと思う。
- ・ ルールはない。”まかせる”スタイルにならないように学校との打合せが重要。

Q3. その他、会議で発言しきれなかったことや、全体を通して印象的だったことなど、何かありましたらご記入ください。

### ファシリテーター

- ・酪農体験に費用が必要だが、これは親が負担するのは当然である（子供のため、人生において役に立つから）という意見が出たことが印象的だった。
- ・ファシリテーターの質の高さを感じた会議だった。先生たちも前向きだった。
- ・子供たちの変化を見られるような教育ファームであれば、酪農家側の変化も同様に期待できるであろうと、後継者の顔を思い浮かべた。
- ・フリフリバターによる子供の反応に興味深い特徴が見られています。これまでのバター作り体験で性格が表れてくる。“だまってどこまでもフリフリする子” “何秒かおきに出来を聞きに来る子” など。あまりクラスで目立たないけれど、辛抱強くフリフリしてバターが早く出来た子が、皆から「すごい！」と見られたことも何度かあった。学校というクラスという枠の中で見えなかった友達の新たな一面の発見も出来るのかなと思っている。
- ・非常に皆さん熱心で驚き感動した。こんなに熱心に取り組まれていればきっと教育ファーム活動の未来は明るいだろうと確信した。
- ・本来の活動に加え、牛を育てることから得た食べることの大切さ（質とバランス）がもたらすこと。アンバランスによる病気の発生などを合わせて伝えることを皆で取り組むことが望ましいと考える。

### 教育関係者

- ・大変有意義な会議だった。今の学校で出来ることを考えていきたい。
- ・酪農家さんと一緒に話し合う機会は互いに大変有効。ぜひ継続していきたい。
- ・ファシリテーターの生の声を聞くことができてよかった。酪農教育は食といのちをメインにしているが、もう少し広く職業や進路選択としても捉えていくと実態が広がっていくと思う。
- ・教育関係者ばかりの集まりでは得られない大変有意義な研修が出来た。今後もぜひ参加していきたい。毎回学ぶことがたくさんあり新鮮な思いが得られるので、続けてほしい。
- ・出前は酪農家の熱い思い、教師の酪農を通じての伝えたい思いがあって初めて効果的に成り立つと思う。教師はそれに対して最大限の敬意を払い、ある意味教育の暴力をしないこと。酪農家は上手に話すことが目的でなくどのように思いを伝えるかを考えればいいし、出来ないときは教師がフォローすればいい。
- ・研修会でも同様のことが言えるが、教育目標、与えたい学力を整理し、児童生徒がどの程度理解習得したかをアセスメントする方法を開発することが求められる。人間力を示す指標を教育業界は今のところ持っていない中での実践研究なので困難さは伴うが共に進めていきたい。
- ・今年の研究を含めて、大学生の卒論として取り組むのは限界があるのではないかと。研究者が毎年変わり、深まらない。分析手法が用いられていない。データとして積み上げる方向性がない。次年度は追跡調査ということだが、そのファクターをどう取り扱うのかなどの課題もクリアにならないと、今年と同じくらいアバウトな研究になってしまうのではないかと懸念する。

### 指定団体

- ・生産者、学校双方の負担や目的のバランスを考えて、訪問型か出前型を選択するといいいように思う。
- ・学校サイドと生産者を仲立ちする組織の職員が実状に合わせた企画が出来るように学ぶべきではないか。